

１０．ピアスタッフの効果・有効性

ピアスタッフならではの意義

- スタッフとしての役割＋ピアとしての特性(＝人生経験・リカバリープロセス）を生かす
- 同じ経験をしていて、少し先ゆく道先案内人。ロールモデル。人生の**希望**となる.
- 地域生活の先輩としての**存在意義。生きた情報提供**.
- 真の「傾聴」と「共感」によりリカバリーのきっかけとなる.
- **権利擁護**者・本人の思いの代弁としての役割も可
- ピアサポーターのリカバリー
- **組織全体・専門職者の意識の変革・パラダイムの転換**のきっかけとなる

(相川,2010,インタビュー結果より)

ピアスタッフはリカバリーを広げる立役者！

- これまで、制度やサービスをつくるところ、サービスを提供するところ、提供されたサービスについて振り返るところ（モニタリング）、すべてのところに「当事者」「経験者」は不在だった。
- 「経験のある」ピアサポーターが入ることによって、より利用者の思いに寄り添ったサービスの提供が期待される。そしてそれがリカバリーの循環、継承性となる。
- ピアサポーターを導入することで、互いのリカバリーを促進するより効果的なサービスを提供しようとする役割。

ピアスタッフによる６つの変化

社会の変化：スティグマの軽減

利用者の変化

• 誰かが自分の話を本当に聞いてもらうと人は変わっていく
•ロールモデルとの出会いがリカバリーのきっかけになる

ピアサポーターの変化

自分に意味のある仕事をしていると感じると人は変わる。セルフエスティームが高まると人は花咲くよ

組織文化や精神保健福祉システムの変化

リカバリー志向へ向けた文化・意識への変化

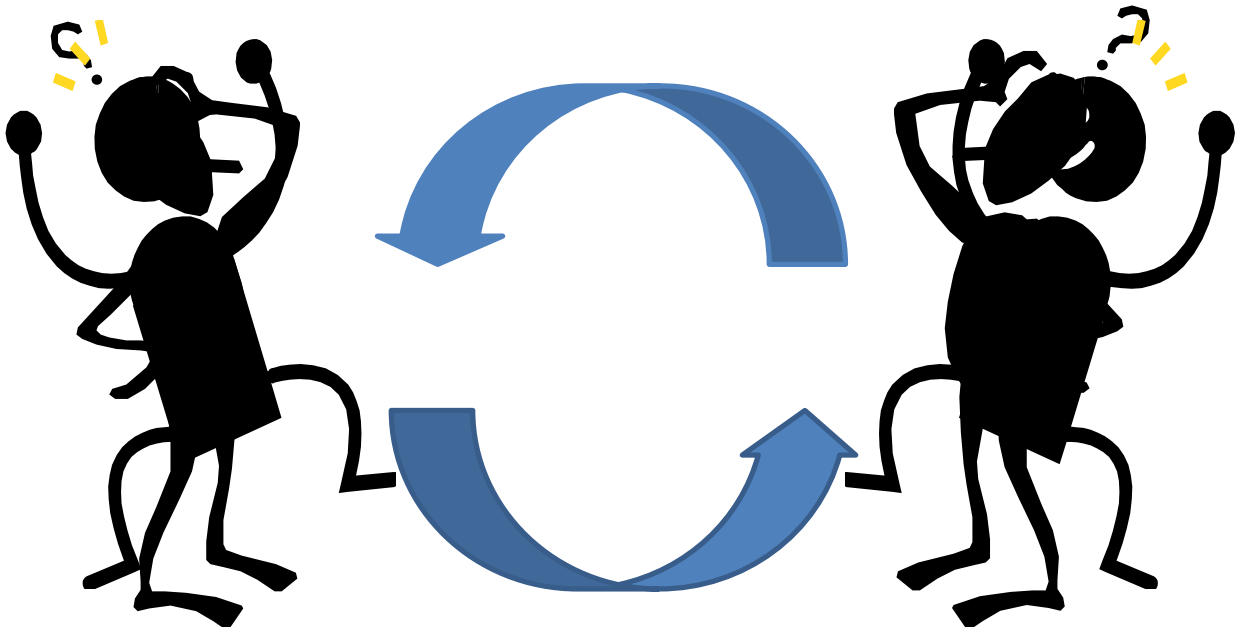
サービスの質の変化

・サービスの受け手の視点が送り手に入ることによりニーズにあったサービスを提供するようになる

他の職員の変化

・リカバリーは誰にでも起こり得ることを信じるようになる
・無意識のうちにあったスティグマの軽減

支援する人がもっとも元気になる原則
（ヘルパーセラピー原理）

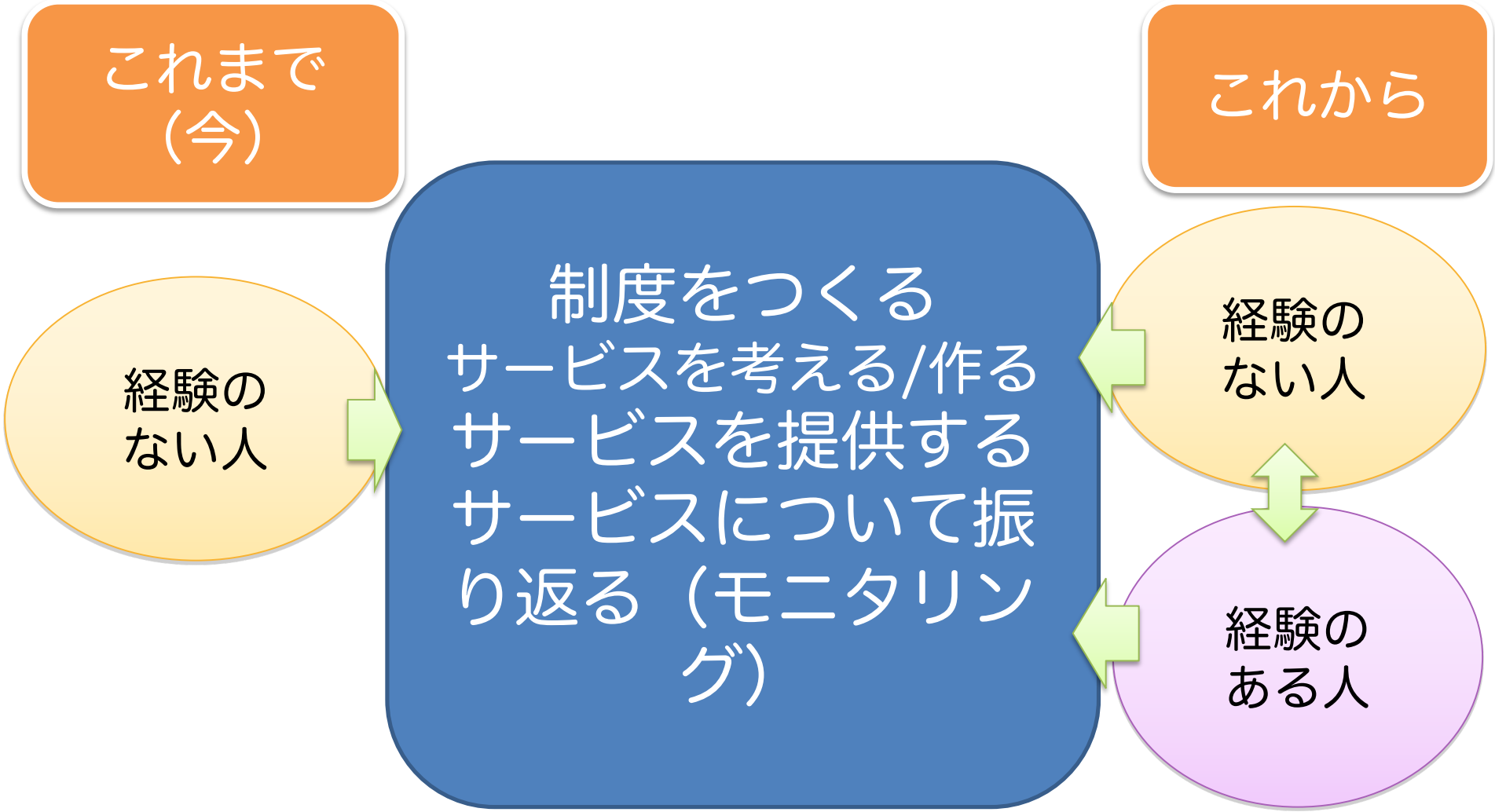


話し手/相談者　　聞き手/支援者

メンバーが援助者役割をとることによって自分自身の問題をよく理解できるようになったり、「自分も役に立っているのだ」という自尊感情を回復できることを示し、「人は人に援助を提供する側がもっとも援助をうけている（支援する人が元気になる）」

（Riessman,1965）

あったらいいなぁではなく、なくてはならない！
ピアサポート/ピアスタッフ





11. ピアスタッフを取り巻く課題

私の苦い経験

- 『当事者主体』をかかげて『当事者』とともにセンター設立準備
- 利用者がサービス提供側に加わることがまさに『当事者主体』の実現！と思い込む
- 準備から積極的にかかわってくれた元利用者をピアサポーターとして今思えば安易に採用
- ピアサポーターになり悩み、つぶれてしまう
- つぶれてしまったのはなぜか。

「つぶれてしまう」７つの理由

北米・日本の辞職・休職者の共通点は以下の点が単一、もしくは複数重なっていることがわかった。

①雇用方法が不明確（一本釣り）

②一人職場である

③利用者としての立場を失う（利用期間の終了など）

④研修がない（特に採用前）

⑤スーパービジョンがない（相談者がいない）

⑥二重関係や役割のあいまいさなどで悩んでいることに雇用主等が気づいていない

⑦ピアサポーター雇用するにあたりリカバリー志向への組織文化、職員の意識の変化がない

➡ **すべて環境的要因**

A.Aikawa

ピアスタッフをとりまく課題

おかれている立場

ポジションのあいまいさ、二重・多重関係・役割葛藤と混乱、境界（バウンダリーと倫理

就労環境

採用方法・一人職場・研修・スーパービジョン・仲間の存在・利用者であることの保障

専門性

個人的経験の開示・

個人的経験の尊重と専門家としての専門性の般化

環境

職員との権力格差・

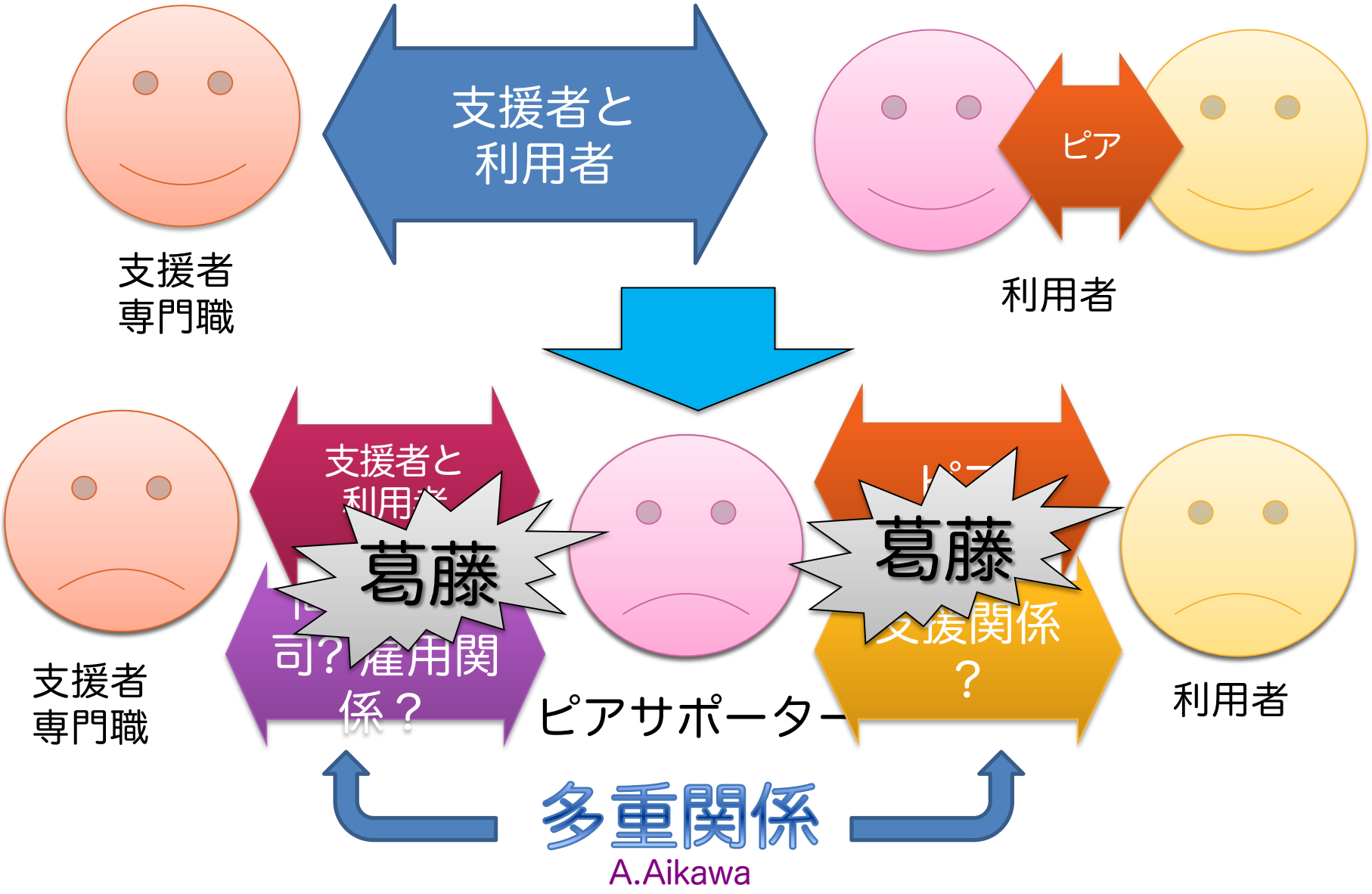
アンチリカバリー志向の

組織/職員

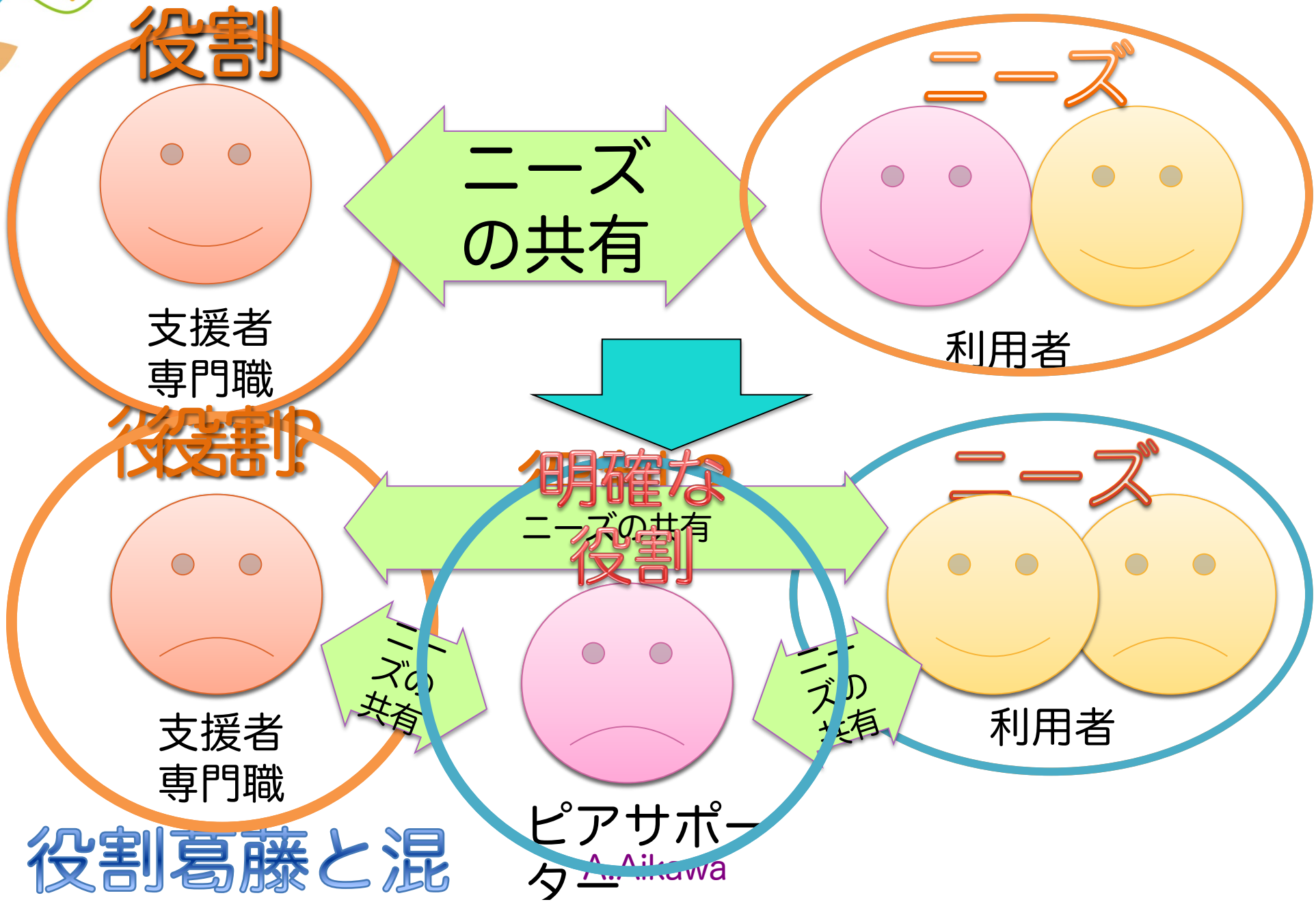
ピアスタッフとの協働
その前提となる理解

- 二重関係・多重関係⇒関係性葛藤への認識・理解
  - 友達であり/支援者でもある
  - 利用者でもあり/同僚でもある
- 役割葛藤・混乱/ポジション葛藤への認識・理解
  - 私は当事者？利用者？支援者？
  - 専門職とは異なる「ならでは」の役割とはなに？
  - 利用者（サービスの受け手）であることを失う
- 守秘義務・倫理/バウンダリーへの認識・理解
  - 友達として聞いた情報/ケアチームで共有する？
- 職員・組織文化のリカバリー志向への転換

二重関係・多重関係への意識化



役割葛藤と混乱への意識化





実は…ピアサポートって，いいことばかりじゃない・・・

- 聞いて欲しいのに，いろいろアドバイスされてモヤモヤした.
- 話したことが他の人に伝わっていた.
- わかるわかる，といわれてその人に決められてしまった.
- 障害や病名によって「違う」と思われた.
- 揉め事がおきたときに仲間だけだと困る.
- 電話で相談を受けるのはいいんだけど，夜中にもかかってきたり，なかなか切れない.
- お金をかしてほしいといわれて困った.

- 傾聴
- 秘密を守る
- 自己決定
- スティグ
- 対立解消（メディエーション）
- 倫理とバウンダリー

必要な研修内容

12. ピアとの協働のための９つの環境づくり

①雇用方法の明確化(公募・採用条件)
②（基本）複数雇用
③利用者の立場（サービスを受けること）の保障
④研修・スーパービジョンの実施
⑤二重関係・役割葛藤と混乱への理解
⑥守秘義務等バウンダリーへの理解
⑦チームケアの支援体制づくり
⑧安定した仕事量と収入
⑨リカバリー志向へのパラダイム転換



ピアとの協働のために

開かれた対話をとおして（オープンダイアローグ）

ともに考え、ともにデザインし（コ・デザイン）

ともに創り（コ・プロダクション）

ともに振り返る（コ・モニタリング）

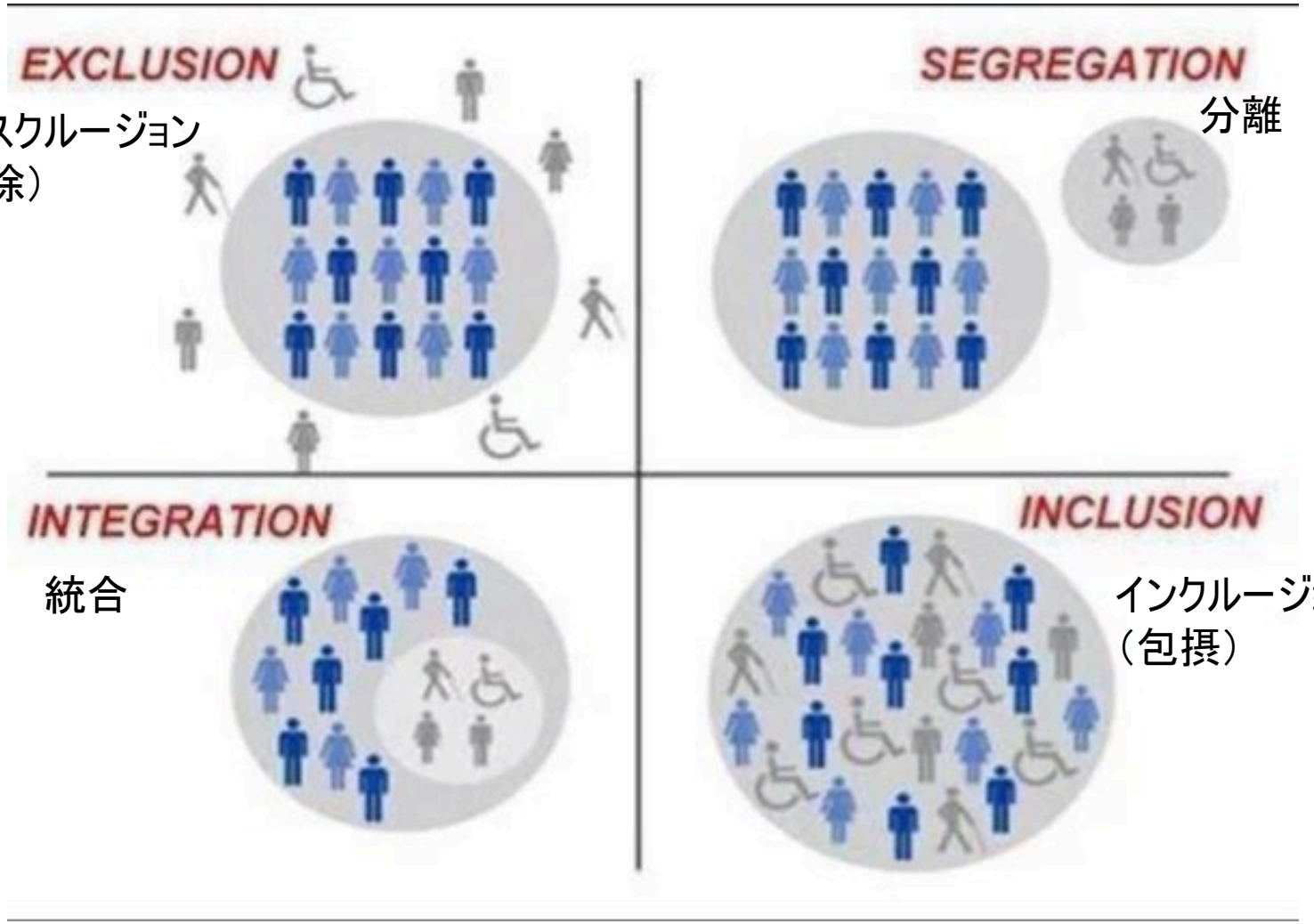
16.ピアスタッフ研究から
見えてきたこと
–ソーシャルワーク実践へ向けて–

ピアスタッフ/ピアサポート研究へ

ピアサポートとコミュニティ・インクルージョンへの視座

- 米国・Philadelphiaでの調査（2016.8-2017.1）
- Matthewの語り**「ピアサポートはコミュニティ・インクルージョンの最大の架け橋である」**
- コミュニティ・インクルージョン（Salzer MS, 2017）
  - 共に「あるbeing」と共に「するdoing」
  - そのための「障壁を取り除く」ことと地域に「歓迎すること」
  - そのための「機会」をつくることと「行動の結果」
  - 全てのプロセスに「ピアサポートの力」

エクスクルージョン（排除）から インクルージョン（包摂）



エクスクルージョン
（排除）

分離

統合

インクルージョン
（包摂）

多様性（ダイバーシティ）

コミュニティ・インクルージョン
地域包摂とは？

- 地域の一員として地域の中に共にいる
- 地域の一員として地域市民と共に参加する

Being
在る

Removal Barrier
障壁を取り除く

Opportunity
機会



Doing
する

Welcoming
歓迎する

Outcome/
Behavior
結果・行動

Salzer M.S. Baron R.C. Well Together 2016

ピアスタッフ研究から見えてきたこと1
–ソーシャルワーク実践へ向けて–

「協働」

見えない世界を持つ人々を必要とすること・共に歩むということ

- 経験したものにしか見えないことが確実にあるということ
- 経験したものの語りに寄り添い、ありのままを聞き抜く
- 経験したものにしか見えないことと、経験していないものにしか見えないこととの両者を必要とし、「協働」することで生み出されるものがある

ピアスタッフ研究から見えてきたこと2
–ソーシャルワーク実践へ向けて–

「新たな関係性」

固定化した関係性からの脱却と、柔軟な関係性へ

- 支援するーされる、という固定化した関係性による限界と生きづらさへの気づき
- 支援する、かつ、されるプロシューマーの出現によるポジションの揺らぎ・葛藤
- 可変力動的な柔軟な関係性へ
- 新たな関係性から見えてくるもの

ピアスタッフ研究から見えてきたこと3 –ソーシャルワーク実践へ向けて–

「共生」

多様な人々が地域のなかで共に生きることへの具体的な架け橋

- ピアスタッフの語り「専門職の上司に私の悩みを話すと、なんとなく向こうの土俵で言いくるめられてしまう気がする」
- 見えない文化・言葉・世界観を尊重するということ＝自分の文化・言葉・世界観に置き換えずにありのままの語りを聞くということ
- 共に生きる：共に学ぶ・働く・余暇を過ごす・・・・
  - 「居場所（トポス）」「つながり」「役割」(阿部彩)
  - 「安心」「信頼」「希望」（福田正人,2019）

京都ならではの
ピアサポート・ピアスタッフ活動を！

- ここにはここの人と人とのつながりがある。
- ここにはここのピアサポート実践がある。
- その実践を積み上げてきたピアサポーター先駆者が、自分たちのなかで紡ぎだされた言葉、理念、思いを大切につくりあげていくことが大切。
- まずは立場を超えて集まって，語り合いましょう！

誰もが暮らしやすい街を
誰もが共に暮らせる街を
（コミュニティ・インクルージョン）

そのために

ピアサポート文化を広げよう*

＊ M.Federich.2017.「ピアサポートはコミュニティ・インクルージョンの最大の架け橋である」

もっと詳しく知りたい方へ













ありがとうございました！

A.Aikawa